

公表所管課長 様

まなび推進課長 大崎 伸一

会 議 要 録

名 称	西予市文化的景観保護審議会	
事 務 局	まなび推進課 三瀬有寿紗	
	電 話 0894-62-6415	
	F A X 0894-62-6564	
開 催 日 時	令和7年9月30日(火) 午後2:00～午後5:30	
開 催 場 所	狩江地域づくり活動センター2階ホール	
出席者	委 員	上杉和央会長、宮本春樹副会長、釜床美也子委員、赤松悟委員、川越文憲委員、宇都宮順一委員
	その他	林悠太郎学芸員(愛媛県教育委員会) 沖村智氏、佐藤文明氏(オブザーバー) 上甲恵担当係長、橡木貢誠技師(建設課まちデザイン係)
	事務局	大崎伸一課長、高木邦宏課長補佐、兒玉洋志係長、三瀬有寿紗主査
議事内容(要旨)	<p>1) 機屋修繕ワークショップの進捗と今後について(報告)</p> <p>機屋修繕ワークショップの実施に至る経緯、実施前の状況、取組内容、修理箇所について平面図をもとに事務局から説明した。意見を求めたところ、ワークショップでの修理を市の直営で実施でき、参加者の協力によってあれだけ外観が変わるのだと周りに伝えられる好例になった。狩浜には左官業者、土壁ができる技術者がいないと聞いていたが、このようにできたことは今後につながる大きな成果になったとの意見であった。ワークショップに参加した香川大学院生の感想としては、とても楽しかった、貴重な経験をした、自分たちだけの経験に留めずいろいろな人に伝えたいとのことだった。</p>	

2) 毛利家蔵修景について

現状、事業費、補助金支払い事務手続き中であることを事務局から説明。特に質疑なし。

3) 誘導サイン整備について(報告)

誘導サイン整備の進捗と今後の予定、重要文化的景観エンブレム案について事務局から説明し、意見を求めたところ、解説板の字が小さい、マップの木のイラストや小径が多いとの意見があり、翻訳文の表示方法、見どころのナンバリングの可否等含め、引き続き調整していくこととなった。また、エンブレムの色は海を連想させる青、もしくは山や柑橘樹の緑、石灰石の灰色という意見があった。上から見下ろした風景だけでなく、海から見上げた眺めや、石積みを強調できないかという点も含め、引き続き検討していくこととなった。

4) 整備計画の進捗について(報告)

文化庁とも協議の上、計画期間を5年間から10年間に延長したこと、計画の順番を入れ替えたことを再確認の上、令和6年度～8年度に実施予定としている計画の進捗状況を事務局から説明。意見を求めたところ、井戸広場として整備を想定している場所について質問があり、事務局から説明した。

5) 8月豪雨被災箇所への復旧方法について(協議)

現地視察を踏まえ、被災箇所(2園地)の現状、市の対応状況を確認。文化的景観保護審議会、文化庁、愛媛県教育委員会文化財保護課から聴取した意見、西予市教育委員会まなび推進課の意見、今後の課題について事務局から説明。意見を求めたところ、日常的な積み直しは地元住民や関係者で協力することも大事である一方、今回のような大規模な被災時はスピード感と所有者負担の軽減が大事であることを踏まえ、西予市農業水産課にて計画中の復旧仕様(かご枠、練石積)も認めつつ、かご枠の手前(目立つ部分)は現地石材を使っていただくなど、可能な範囲で地域らしさを残していくことが必要であるという意見であった。また、石積修理の際に使用する石材調達、人手集めの課題解決に向け、不要石材を旧狩江小に集めていることの周知・情報共

	<p>有、石積ワークショップ参加者の囲い込みなど、石積レスキューのネットワークを構築していけると良いとの意見があった。</p> <p>これらの意見を踏まえ、復旧方法について引き続き西予市農業水産課と情報共有しながら協議を重ねることとし、今後の対応については日常的なメンテナンスと災害復旧の場合で分け、関係者にヒアリングをしながら復旧フローを整理していくこととなった。</p>
備 考	